

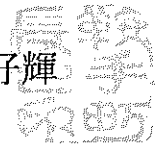


20 鞍建第 805 号

平成 20 年 10 月 16 日

国土交通省道路局長 殿

鞍手町長 柴田好輝



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼のあった標記の件について、別紙のとおり提出します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

地域における国道、主要地方道の幹線道路は整備が着々と図られていますが、当該路線とアクセスする地方の道路整備・交通体系の整備の遅れにより、幹線道路と一体となった機能を果たしていない状況があります。そのため、定時性の確保など地方の経済・産業に十分寄与できていないのが実情です。

地方の道路整備に対し、地域間の幹線道路整備などには交付金事業など国の支援策がありますが、脆弱な財政状況にある地方にとって、道路整備は地域が活性化するための必要不可欠なインフラでありながら、財源確保が困難な状況の下、既存道路の維持管理も十分対応できていないなか、社会資本の投下が出来ず基幹道路・生活道路の整備が遅滞しています。

このような地方の状況に配慮した国の新たな支援策を要望します。

今後の道路行政についての意見・提案

②－１ 地域の現状と抱える課題

様式 ②

福岡県鞍手町

○ 現状

国道・主要地方道と地域の幹線道路・生活道路は密接に関連し、圏域の道路整備を計画的に推進することで、地域の浮揚・活性化が図れる重要な役割を持っています。

しかしながら、国・県レベルの道路整備は着々と推進されていますが、地方における道路整備は厳しい財政状況の下、進んでいないのが実情です。

○課題

当圏域に高速交通拠点となる(仮称)筑豊インターチェンジ整備が進められている。同インターへのアクセス道路として、県道については一部整備が進められているが、北九州都市圏と連結する町決定の都市計画道路を含めた幹線町道の早期整備が望まれるが、財源確保が課題。

当圏域は、福岡市、北九州市両都市圏の中間に位置する地理的条件を有し、し、トヨタ自動車九州㈱をはじめ自動車関連企業など産業集積が進んでいる。また、福岡県が進める自動車100万台新戦略構想の自動車150万台、域内部品調達率70%を目指した取り組みにより、社会的環境や地理的優位性が更に向上するものと想定されます。

このような中、地域振興の要となる道路網の整備が着々と推進されています。また、旧産炭地域振興策として高速交通拠点となる(仮称)筑豊インターチェンジの整備が進み、地域間の連携の強化や企業の立地環境を高め、本地域一帯の発展が期待されます。

本地域の道路網の整備と公共下水道事業などの都市基盤整備により、企業誘致、雇用の場の確保、定住促進と、それぞれがリンクした相乗効果により産業活動、住民生活の向上が期待でき、広域的な利便性を高め本地域の活性化を図ります。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

福岡県鞍手町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	(仮称)筑豊インターチェンジ整備 遠賀川渡架橋整備	高速交通拠点整備による新たな土地活用(企業、住宅誘致)が図れる。地域活性化に繋がる。 北九州市都市圏と周辺地域の交通渋滞の緩和、物流機能の強化が図れる。地域活性化に繋がる。	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	交通安全施設整備	交通事故対策、歩行者の安全確保が図れる。安全・安心のまちづくりを推進できる。	